



【トンネルの中からは、自決のための手榴弾の爆発音が絶えなかったという】

マニラ湾の沖に位置するコレヒドール島。

ここには、太平洋制海上の重要拠点とし、スペイン植民地時代から築かれた要塞がある。

その後はアメリカの統治化、そして一時的に日本が占領し、終戦まで、その支配下に置かれた歴史がある。

1942年、日本軍の猛攻により島から逃れたマッカーサー元帥が「**I shall return**」の言葉を残して去ったことでも有名である。

「フィリピンにあるからには、一度は行っておかなければ」、と思いながら、ここまで来た。

今年、終戦**70年**の日を迎える。

そしてその日が近づき、こぞって、あの戦争の議論と平和への祈りが高まる**8月**、くしくも、この地を訪れる機会を得た。

マニラ湾のフェリーターミナルからツアーに参加し、島内をバスでまわる。

数々の歴史的な構造物が残り、その中には、おびただしい砲台の他に、映画館やゴルフ場もあり、米軍のこの島での当時の生活を彷彿させる。

ここで撮影したのが、このマリント（**Malinta**）トンネルである。

1945年2月、マッカーサーの怨念をはらみ、米軍のコレヒドール島奪還作戦が開始される。

これには、激しく執拗な砲撃に加え、**2,000**人もの落下傘部隊も投入される。

遂には、島内の守備にあたった約**5,797**名の日本兵は、トンネル内で玉砕を決行。

その内、残ったのは、死に損なった**26**名の兵士だけという凄惨さであった。

こうして、コレヒドールが陥落し、太平洋戦争は終幕を迎えることになる。

終戦**70年**の年の**8月**、ここを訪れ、戦争で亡くなった人たちの御霊に、手を合わせることが出来た。

このとき流した溢れる涙と共に一生の思い出にしたい。